

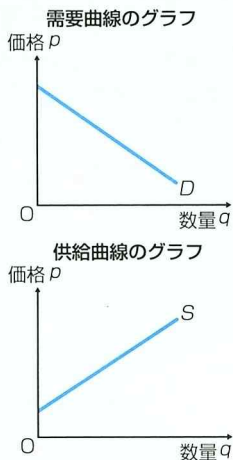
テーマ7 市場均衡と不均衡

【補足と注解】

需要曲線は、価格変化に対する消費者の反応を表したものである。消費者（家計）は価格が上昇すれば財の購入量を減らす行動を自由にとることができる。供給曲線は、このような価格変化に対する生産者の反応を表している。また、生産者（企業）は価格が上昇すれば供給量を増やす行動を自由にとることができる。

(1) 需要曲線と供給曲線

1 需要曲線と供給曲線



まず、需要曲線と供給曲線を実際に数式を用いて説明してみよう。

問題1 ある財の需要曲線が以下のように与えられている。ただし、 p ：価格〔円〕、 D ：需要量である。

$$\text{需要曲線：} D = 400 - 2p$$

このとき、価格が100円に規制されたとすると、需要量はいくらになるか。

需要曲線の式では、右辺に価格 p がとられ、左辺に需要量 D がとられている。需要曲線は人々の価格に依存した需要行動を表すものだからである。**問題1**の需要曲線において、もしも価格が200円ならば、

$$D = 400 - 2 \times 200 = 0 \quad (1)$$

となるので、需要量はゼロである。この場合、だれもこの財を需要しない。価格が下がり、150円になると、

$$D = 400 - 2 \times 150 = 100 \quad (2)$$

であるので、100個の需要量が見込まれる。次に**問題1**のように価格が100円に規制され固定されているときには、

$$D = 400 - 2 \times 100 = 200 \quad (3)$$

となるので、人々は200個を需要することになる。

問題2 **問題1**の場合で、生産量が80個に規制されたとすると、価格はいくらになるか。

問題1で見たように、問題の式は価格 p が需要量 D を決める関係を表している。これは需要曲線の式であり、需要関数と呼ばれる。人々が需要量を決めると購入価格が決まるのではなく、人々が価格を見て購入する数量が決まる関係を表しているのである。しかし、**問題2**では価格

テーマ3 政治制度

地★★★★ 市★★★★
 県★★★ 府★★★★

【補足と注解】

1 国王（世襲）

イギリス国王は形式的には国の元首であり、法理論上は法の源泉であり、行政の権限を各大臣に委任する形になっている。また、イギリス国王は法律拒否権を持っているが、1707年以来実際に行使された例はなく、イギリス国王は象徴的地位にあるといわれる。

2 違憲審査権

違憲審査制度は、憲法の最終的解釈権を司法部に与え、立法部で制定された法律の違憲性を判断させることによって、立法部の専権を排し、司法部に第三院としての役割を果たさせようとしている。

3 アメリカ大統領選挙

各州の大統領選挙人を有権者が選ぶ本選挙と、それに先立つ各州の大統領候補指名の全国大会に参加する州代議員を選ぶ予備選挙・党員集会に分かれる。共和・民主の各党大会で最終的な正副大統領候補の指名と党の綱領が採択された後、本格的な選挙戦に入る。本選挙は各州で多数票を取った候補がその州の大統領選挙人全員を獲得する仕組み。

4 内閣

首相と各省大臣は形式的には国王によって任命されるが、慣行として下院の多数党の党首が首相となり、諸大臣は原則として議員の中から首相によって選ばれる。内閣は連帯して議会に責任を負うため、議会の不信任決議を受けて総辞職することもある。

(1) 議院内閣制と大統領制

代議政治を基本原理とする現代の政治制度は、議会（立法権）と政府（行政権）の関係のあり方によって、イギリス型の議院内閣制と、アメリカ型の大統領制とに区分される。

表1 議院内閣制と大統領制の比較

	議院内閣制（イギリス）	大統領制（アメリカ）
元 首	国王（世襲） ¹⁾	大統領
権 力 分 立	立法権と行政権が融合関係。	厳格な三権分立。裁判所に違憲審査権 ²⁾
議 会	下院優位の原則	上下両院対等だが、上院重視
内閣の組織	首相と各省大臣は国会議員から選ばれる。実質上各省大臣は首相が任免。	大統領は国会議員とは別に間接選挙 ³⁾ によって選出。各省長官（議員との兼職禁止）は大統領が任免。
内閣の責任	内閣は議会に対して、連帯責任を負う。	大統領は議会に対して責任を負わず、直接国民に責任を負う。各長官は大統領に責任を負う。
議会と内閣の関係	下院は、内閣不信任決議を行うことができる。その成立後、一定期間内に政権への信任決議が可決されない場合、総選挙が行われる。議員のほか、内閣にも法案提出権がある。	大統領は議会から不信任を受けることはなく、また議会解散権もない。大統領に法案提出権はなく、必要な立法措置を教書で議会に勧告したり、拒否権を行使したりできるのみ。
長 所 および短所	議会と内閣の関係が密接で、意見の一致が行われやすい。また、解散制度により、いつでも国民の意思を問うことができる。与党の力が弱いと、政局が不安定になりやすい。	国民により選出された大統領は議会からあまり制約を受けず政策を実行できる。また、議会と政府の対立、大統領の専制などの危険性がある。

図1 イギリスの政治制度

